

【表12】 打ち返しと連打の衝撃力

	格闘技の種類	最大値 f_m (kgw)	持続時間 T_i (ms)	全力積 S_i (kgw.s)	連打の間隔 T_i (s)	
打ち返し	空手	463	20.6	3.58	—	
	日本拳法	452	17.8	3.12	—	
	中国拳法	396	20.5	2.90	—	
	キック	449	16.6	2.69	—	
連打	空手	1	183	64.5	2.71	0.251
		2	318	20.0	2.52	
	日本拳法	1	202	19.4	1.87	0.158
		2	278	20.4	3.45	
	中国拳法	1	253	17.5	2.09	0.165
		2	179	21.0	2.19	
	キック	1	137	26.7	1.40	0.319
		2	311*	18.6	2.63	

*別の試技では第1打が測定できなかったが、第2打の f_m は350kgw.

測定の結果は表12のようになった。数値を見ると、打ち返しはその場逆突きに比べて必ずしも強いとは言えない。そこで、その場逆突きの動作を振り返ってみると、いきなり右肩や右腕を突き出すのではなく、まず左肩が前に出る。このとき右肩は同じ位置に留まるので、結果として体は右にひねられる。次に右拳を突き出すとき、このひねりを反動として利用することができる。要するに、左拳を軽く突き出すかどうかの差があるだけで、その場逆突きも打ち返しも全身の動きはほとんど同じなのである。衝撃力があまり変わらなくても当然である。

次に連打であるが、第一打と第二打が打撃部に当たる間隔は、日本拳法の0・一五八sからキックの0・三一九sまでいずれも非常に短い。

⑮ 意外ワン・ツリーの威力はワンパンチと同じ？

打ち返しと連打の衝撃力

とき体が右にひねられるので、その反動(筋弾性)を利用して右拳を打ち返すのである。反動が利用できるので「打ち返し」は強いと言われている。

連打は打ち返しの第一打をも実際に当てる技である。ただし、中国拳法の選手は右左の順で突いた。第一打を当てることにより、右にひねる勢いが消えるので、第二打は反動を利用することができない。当然、打ち返しの場合より衝撃力の落ちることが予想される。

者の突き方では胴体も同時に前進するので、胴体の運動量を利用しやすいと考えられる。実際、表11の値は、空手と中国拳法の衝撃力の持続時間 T_i が長く、全力積 S_i も最大値 f_m の割りに大きくなっている。

その場逆突きに比べると、最大値 f_m は空手だけが増え、その他は少しずつ落ちていく。他の三格闘技は移動によるバランスの崩れなどがマイナスの要因となったのに対し、空手では突進の勢いが有効に活かされたのかもしれない。それでも、 f_m はやはり日本拳法が最高である。

打ち返しというのは左の軽い牽制(的には当てない)に続く右の逆突きである。左を出した